

第 35 回 北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 令和 6 年 3 月 21 日(木) 14 時 00 分～16 時 00 分
2. 場 所 北陸地方整備局 6 階 河川情報管理室 (Web 会議形式)
3. 出席者 辻本委員長、飯田委員、池本委員、関島委員、中田委員、平林委員、柳原委員
4. 議 事
 - (1) 大石ダム管理定期報告書 (案) について
 - (2) 北陸地方ダム管理年次報告書 (案) について

(1) 大石ダム管理定期報告書（案）について

【総括】

平成30年度～令和4年度の調査結果の分析・評価をとりまとめた大石ダム管理定期報告書（案）について、審議された。

その結果、治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況に現状で問題ないことから、大石ダムについては適切に管理運用されていることが確認され、定期報告書（案）については了承された。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は下記のとおりである。

1) 概要

・なし

2) 防災操作

・「洪水に達しない流水の調節」という文言が一般の方には伝わりにくいと考える。分かりやすい表現に修正した方が良い。

3) 利水

・なし

4) 堆砂

・なし

5) 水質

・大腸菌群数から大腸菌数へ評価項目が変わったことを記載した方が良い。

6) 生物

・動物プランクトンの増減と、水質障害や生物への影響に対する因果関係は評価が難しいため、記載内容を工夫した方が良い。

・国管理ダムからダム下流区間へ外来種であるイタチハギが拡散している状況は問題であるため、対策を講じる必要があると考える。ダムの水位運用で対応できるのが一番効果的ではないか。

7) 水源地域動態

・コロナ禍を経て、ダムに興味を持っている人が減っているように感じる。ダムへの興味を持ってもらえるような新しい工夫が必要と考える。

(2) 北陸地方ダム管理年次報告書（案）について

【総括】

大石ダム、手取川ダム、大町ダム、大川ダム、三国川ダム、宇奈月ダム、横川ダムの7ダムについて、令和4年度の管理・運用状況を取りまとめた北陸地方ダム管理年次報告書（案）について、報告された。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は下記のとおりである。

1) 概要

- ・コロナ禍での分散勤務形態においてダム管理業務を維持した実績が重要であり、評価は難しいがその蓄積がメリット・デメリットの把握に繋がるものとする。
- ・単年のみの記載だとその前後の変化傾向が分かりにくく、誤解を招くこともあるため、整理方法を工夫する必要がある。

2) 防災操作

- ・令和4年8月洪水に関し、外水の水位低減効果と内水被害の内容が混在して記載されており、分かりにくいため区別した方が良い。

3) 利水

- ・なし

4) 堆砂

- ・堆砂対策の実施内容を具体的にしたほうが良い。

5) 水質

- ・なし

6) 生物

- ・なし

7) 水源地域動態

- ・ダム管理所・資料館等への来場者数に対してダムカード配布枚数が少ないダムについては、ダムカードのPR方法を工夫した方が良い。

以上